

専門領域企画

体育哲学 記念講演

日時：8月28日（火）14:20-15:20

会場：コラーニングハウスⅡ

テーマ：浅田学術奨励賞・受賞講演：デカルト哲学を捉え直す——<心身の合一>からの展望——

林 洋輔（筑波大学研究員／国士舘大学特別研究員）

体育の場における人間の身体や心身関係の実質を問う体育哲学（原理）分野において、ルネ・デカルト（René Descartes 1596-1650）の思想は常に批判されるべきものとして位置づけられてきた。とりわけ彼の言及した心身関係についての議論——いわゆる<心身二元論>として理解されてきたもの——は、体育実践およびスポーツ活動の場における人間のとらえ方としては不適切なものであるとして、研究史上に閑却されてきたことは周知のとおりである。しかしながら、斯界ではデカルト哲学の再検討を促す指摘も往時から続けられており、近年ではデカルトの原典テキストを精読することによって彼の思想が有する現代的な意義を見極める試みも行われている。そこで今回の記念講演では直近の研究動向をふまえ、2012年度浅田学術奨励賞・受賞論文である『体育哲学におけるデカルト心身論の原理論的考究：従来のデカルト心身論批判の再検討を通して』の内容を主な言及の対象とし、体育学の文脈においてデカルト哲学を展開することの可能性について論じた。

具体的な内容としては、まず体育哲学（原理）分野の諸研究者がこれまでデカルト哲学における心身関係論をどのように批判しつつ議論を蓄積してきたかについて概観した。次に、デカルトの言及した<実体の合一>ならびに<心身の合一>といった心身観が体育やスポーツをめぐる議論に活かされるとすれば、それは何を根拠としてのことであるかについて上掲論文の論理に即して考察した。さらに、当論文の内容へ論駁を加えることにより、デカルト哲学を体育学において語ることの妥当性および学問的な射程についても検討を行った。ところで、斯学においてこれまで受容されてきた<定説>——デカルトの心身観に対する否定的評価——を覆す試みである当論文は、人間によって行われるさまざまな身体運動の有様に関心を抱く諸論者における心身観、ならびに人間観の再考に向けた基礎的な知見を提供しうるだろう。